

発行:2024年6月27日

運送業の業務効率化と安全性向上を可能にする

トラック向けの『タイヤ空気圧・温度管理サービス』を提供開始

住友ゴム工業(株)(社長:山本悟)は、トラック向けのタイヤ空気圧や温度をモニタリングして異常を知らせる『タイヤ空気圧・温度管理サービス』を、7月8日からDUNLOP(ダンロップ)のトラック用タイヤ取扱店で提供を開始します。同サービスは、TPMS(タイヤ空気圧監視システム)とユーザーのニーズに合わせた4種類のツールを組み合わせることで、装着車両のタイヤ空気圧や温度情報を運行管理に活用します。運送業における運行前点検の簡易化による業務効率化と、走行時のタイヤの状況をリアルタイムに把握しタイヤトラブルにいち早く気づくことで安全性向上を可能にします。



物流の2024年問題に挙げられるドライバー不足や輸送力の低下に伴い、安全性の確保と業務効率化の両立への対応が急務になっています。これに対応すべく、当社のタイヤ事業では、手間と時間を要するタイヤ点検作業の簡易化と運行計画に影響を及ぼす予期せぬパンクによるトラブルを防ぐために、トラック向け『タイヤ空気圧・温度管理サービス』を開発しました。

同サービスでは、ユーザーのニーズに合わせTPMS装着タイヤと4つのツールを組み合わせます。

ハンディ式と駐車場管理式は、タイヤトラブルを未然に防ぐために欠かせない停車時の空気圧点検を可能にします。タイヤに専用デバイスを近づけるだけ、もしくは受信アンテナの受信圏内に停車するだけで、タイヤ空気圧が計測されます。さらに、駐車場管理式は、点検記録簿に連携されるので、運行前点検に関する煩雑な業務を大幅に改善できます。

ドライバー通知式とテレマティクス式は、走行中の空気圧異常を検知し、より迅速な対応でドライバーと積荷を安全に守ることができます。ディスプレイで走行中のタイヤ空気圧と温度をリアルタイムでモニタリングするとともに、テレマティクス式の場合には、トラブル発生時に車載通信機から運行管理者にも通知されます。さらに、気が付くことが難しいとされる釘などが刺さった状態で徐々に空気が抜けていくスローパンクも早期に発見します。

タイヤ空気圧を適正に維持することは、燃費改善によるCO2排出量の低減やパンクの早期発見によるタイヤ廃棄量の低減にも繋がり、サステナブルな事業運営に貢献します。

今後、CASE/MaaSといった自動車業界の変革は、運送業でも社会課題解決や付加価値向上に欠かせないものになっていくと考えられています。当社では、そのような環境変化に対応すべく、安全性能・環境性能を一層高めたタイヤ開発および周辺サービス展開のコンセプトである「SMART TYRE CONCEPT」を

掲げています。周辺サービスの 1 つである『タイヤ空気圧・温度管理サービス』を展開することで、安全で事故のない社会づくりに貢献していきます。

■ご参考

トライポッドワークス株式会社(本サービスの共同開発者)プレスリリース:

<https://www.tripodworks.co.jp/news/press/2024/06/20240627-01/>

以上

<商品・イベントに関するお問い合わせ先>

タイヤお客様相談室 TEL:0120-39-2788